



地元へ根差した 建設業者の防災活動



三重県志摩市
株式会社 山下組 代表取締役 山下 信康

1 会社概要

弊社は、大正5年創業、昭和44年7月設立の建築・土木を主とした総合建設業を営んでおり、公共工事、民間工事共に施工させていただいております。また、建設業以外にも油類販売業、コインランドリー、不動産販売業、アパート経営も行っております。

2 防災活動を取り組む背景

古くから建設業者として地元の方々に支えられ、長く仕事をさせていただいているため、地元で災害が発生した時には『いざ鎌倉!』で、会社の総力を挙げて地元復興のために尽力し、地元へ恩返しをするという気持ちは、創業者の祖父から父、私へと代々受け継がれております。

近年発生した東北や北陸、九州の震災により、当地を含む南海トラフ地震の想定震源域では大規模地震が発生する可能性が高まる状況となっています。災害が起きてから尽力するだけでなく、災害が起きる前に防災・減災の観点から弊社にできる事はないかと考え、防災活動に取り組み始めました。

弊社の持つ資源を見直して備品を追加し、防災訓練を行っています。地元自治会や地域住民の方々にも広報活動などご協力をお願いし、これらの取組みが地元の方々の理解を得られるよう、有事の際には利用させていただいて頼られる企業になれることを目指しています。

3 取組みの紹介

弊社がある志摩町は、南側を太平洋、北側を英虞湾に囲まれた志摩半島にあります。志摩半島は東西に約10km、南北に約1kmの蒲鉾状で、標高は最高でも約20m程度ですが、南海トラフ地震での津波想定高さは、高いところで30mを超える箇所もあります。

弊社社屋は標高7mのところ立地しており、津波想定高さは10mであるため、3m程度浸水する予想です。近隣住民は高齢者が多く、周辺の一時避難場所までは遠いため、とっさに避難することが困難であると考えました。弊社社屋は堅牢な鉄筋コンクリート造の3階建てで、屋上は16.5mと高いため、外部からでも昇降できる外部階段を増設して津波避難施設に改築しました。また、3階をリフォームして災害時避難施設を開設し、20名が3日間、快適に過ごせるように考えました。

避難してきた方の汚れを落とせるようにシャワー設備を設け、水道が断水しても利用できるよう、屋上に固化タンクも設置しまし



屋上へ避難できる外部階段を設置し、標高を明記した自社ビル

た。また、エアコンや照明、トイレのウォッシュレットなどが利用できるように、発電機や燃料を備蓄し、改造した既設分電盤のコンセントから発電機で発電された電気を給電すれば、既設分電盤より給電されていた電気設備は全て利用可能になります。

備蓄品の食料品、飲料などは、消費期限を考慮して毎年5分の1ずつ消費してローリングストックをしています。その他の日用品も従業員で意見を出し合い、防災用品カタログで



飲食物や日用品など様々な備蓄品のある災害時避難施設



災害無線設備、停電しても電気が使ええる災害時避難施設



停電しても断水しても使えるシャワー、ウォッシュレット付きトイレ

はカバーされていないゲームや生理用品など、きめ細かな備蓄を行っています。床で寝るのが辛い方も多く見受けられるので、簡易ベッドも準備しています。

弊社は（一社）三重県建設業協会志摩支部に所属しており、災害発生時には三重県、志摩市との協定に基づき災害対策を行います。弊社は事務所2階に無線設備を設置し、災害対策和具基地となっておりますが、2階部分が浸水する可能性を考慮して3階の避難施設にも無線設備を設置しています。さらに、情報収集できるようにテレビ、ラジオ、パソコンも設置しています。

AEDを事務所とガソリンスタンドに設置し、定期的に消防署の指導にてAEDを利用した訓練も行っています。監督の車両全てにもAEDを積載し、現場にいる時だけでなく自宅に帰っても自宅近隣住民のためにAEDが使えるようにしています。

これら設備以外には、地元自治会と協定を結び、太平洋を流末とする河川2本の清掃ボランティアを定期的に行っております。自治会には広報活動を担っていただき、弊社は重機などを駆使して全従業員による一斉河川清掃活動を行い、減災対策に取り組んでいます。



自社クラウドサーバー